令和5年二十歳を祝う会

～テーマ～　あけぼの（曙）

“これまでの成人式から
二十歳を祝う会へ”

1月８日（日）、令和５年垂井町二十歳を祝う会を文化会館大ホールで開催しました。
今年は、平成14年４月２日から平成15年４月１日までに生まれた298人が二十歳を迎えました。そのうち、18人が実行委員として、昨年10月から会の計画をしてきました。会は、小坂音葉さんと鹿野竜靖さんによるピアノと琴の演奏で幕を開け、代表として小竹未紘さんと新井綾乃さんが誓いの言葉を述べ、二十歳としての決意を新たにしました。そのほか、サプライズゲストとして、中学時代の恩師が登場し会場が沸きました。
会が終わると懐かしい友人たちと写真を撮るなどして久々の再会を大いに分かち合いました。

誓いの言葉（抜粋）

本会のテーマは『あけぼの』。新しく事態が進展する、ほのぼのと夜が明ける、という意味があります。これまで私たちを支えてくださった家族や友人、恩師や地域の人たちに感謝するとともに、これから出会う多くの人たちとの繋がりを再認識し、なりたい自分や理想とする人生の実現に向けて、一歩ずつ自分なりのペースで着実に歩んでいきたいという思いで設定しました。

近年、急速に進んでいるグローバル化やＩＣＴ化に加え、新型コロナウイルス感染症に伴う生活様式の変化などもあり、私たちの暮らし方・生き方を大きく変化させなければならない時を迎えています。このような時代に生きる私たちには、自分たちなりの新たな生き方を開拓する力が求められているのだと思います。

ふるさと垂井に生まれ育ったことに誇りをもち、ふるさとを未来へ繋いでいく担い手として、これからの人生を歩んでいくことをここに決意します。そして、生涯にわたり、自分たちの手で新しい生き方を創造し、新しい社会づくりに邁進していくことを、ここに誓います。

実行委員会のみなさん

町長お祝いの言葉（抜粋）

コロナ禍が未だ続く中、私たちはこれまでに経験したことのない日常にさらされ、「今までの『当たり前』とは、何であったのか」についてや、昨年2月に始まったロシアとウクライナの出来事は、同じ時を生きる一人として真の平和について考えるきっかけとなったと思います。そのような中、私たちに出来ることは小さく限られたことではありますが、「今、自分が出来ることは何であるか」を互いに考え実行していくことは私たち自身の大きな支えともなり、それらが社会を変える大きな一歩となると思います。今を生きる自分を大切にし、自らの進む道を歩んでいただくことを願っています。